

ES/1 NEO

CSシリーズ

V05L21R2

Release News Letter

機能修正

改版履歴

日付	版数	内容
2022/02/01	1	V05L21R2 リリース

目次

第 1 章	Acquire.....	1
1.1.	機能修正	1
1.1.1.	Solaris11.4 環境の課金情報を蓄積できない	1
第 2 章	Control Center.....	2
2.1.	機能修正	2
2.1.1.	APMOut missing エラーが発生する	2
2.1.2.	受信データファイルが所定のフォルダに移動しない	3
2.1.3.	システムデータファイル (ASNP) が転送されない場合がある	4
第 3 章	pdbmagic2.....	5
3.1.	機能修正	5
3.1.1.	sysstat12.0 以降のメモリ使用量算出式の変更による不具合	5
第 4 章	CS-ADVISOR.....	7
4.1.	機能修正	7
4.1.1.	Oracle データの評価で Traceback エラーが発生する	7
第 5 章	CS-Storage	8
5.1.	機能修正	8
5.1.1.	取得されたメトリックが欠損値となる	8
第 6 章	CS-Utility	9
6.1.	iim collect.....	9
6.1.1.	一部の OS で FTP ファイル転送に失敗する	9
第 7 章	変更一覧.....	10
7.1.	本リリースより、出力される値 (数値/文字列)、表示の変更一覧	10
7.1.1.	変更一覧	10

第1章 Acquire

1.1. 機能修正

1.1.1. Solaris11.4 環境の課金情報を蓄積できない

分類		数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	●	—	Solaris11.4

○現象

Solaris11.4 環境から取得したユーザ、コマンド毎のCPU使用率、メモリ使用量の情報を処理する際、次のエラーメッセージを出力し、フラットファイルへ蓄積することができませんでした。

<エラーメッセージ>

- ・Event :TemplateError
- ・Description :Accouting file contains data outside interval

○発生条件

Unix Acquire バージョン : 11.20
条件 : ターゲットが Solaris11.4

○原因

Solaris11.4 の acctcom コマンドでは出力結果が UTC 表示となるため、エラーが発生しました。ローカルタイム表示となる APMacctcom を使用するよう修正しました。

APMacctcom は OS 標準コマンドの acctcom コマンドと同様の動作をするコマンドです。

○対応

OS バージョンをチェックし、Solaris11.4 の場合は、APMacctcom を使用するよう Acquire の設定ファイル (APMconfig) を変更しました。

尚、Solaris11.3 以前の環境については、動作上問題がないため acctcom を使用しています。

第2章 Control Center

2.1. 機能修正

2.1.1. APMOut missing エラーが発生する

分類	数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	-	-

○現象

Control Center ログに以下のエラーメッセージが出力されることがあります。

```
Description      :   APMOut      missing   [1517      :   Not      found   [C      :
¥ProgramData¥Metron¥Work¥Seen¥tgt000xxxxx.in¥APMOut] [List] [3912 NFS connection to
'C : ¥ProgramData¥Metron¥Work¥Seen¥tgt000xxxxx.in']]
```

○発生条件

Control Center バージョン : 11.20

○原因

ネットワークの不具合のために突然 SQL Server にアクセスできない場合、または何らかの理由で Athene の制御外でオフラインになった場合に発生することがあります。

○詳細

Control Center は 1 分間待機してから、失敗したデータベース操作を再試行します。

待機している間、ターゲットからデータを収集するスレッドを起動し続けます。この間に In¥tgtNNNNNNNN.metron サブフォルダが作成された場合、APMOut などそのターゲットに必要なサブフォルダが作成されませんでした。

Control Center が通常のを再開し、サブフォルダの名前が In¥tgtNNNNNNNN.ready にリネームされ、データを処理するために Seen¥tgtNNNNNNNN.in に移動すると、サブフォルダが見つからないためエラーが発生します。

○対応

Control Center のログに APMOut missing エラーが出力される問題を修正しました。

○実施が必要な作業

ネットワークの問題が解決されると Control Center は再び正常に動作するようになりますが、適切に処理を再開するために Control Center サービスを再起動してください。

2.1.2. 受信データファイルが所定のフォルダに移動しない

分類		数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	-	-	-

○現象

稀にターゲットシステムから受信するデータファイルが Work¥In フォルダから Work¥Seen フォルダへ移動しないことがありました。そのため、Work¥In フォルダに受信データでいっぱいになることがありました。

○発生条件

Control Center バージョン : 11.20

○原因

Capture Profile を作成するスレッドが 1 分ごとに 20 秒の時間に合わせられているため、非常に稀ですが他の動作中のスレッドに干渉することがありました。

○対応

Control Center サービスを再起動して、処理を再開します。

2.1.3. システムデータファイル (ASNP) が転送されない場合がある

分類		数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	-	-	Windows Server 2019

○現象

Windows Server 2019 から Windows Acquire のシステムデータファイル (ASNP) が転送されない場合があります。

○発生条件

Control Center バージョン : 11.20
条件 : ターゲットが Windows Server 2019

○原因

Windows Server 2019 において、特定のファイルが存在しない場合に返されるエラーコードが変更されたことに起因する現象です。

○詳細

Windows Acquire の収集データが出力される APMOut フォルダ内には、「2Acquire.txt」というファイルが存在しています。このファイルには Acquire のバージョン情報が記載されており、Control Center は収集データのファイル転送動作時に「2Acquire.txt」も転送し、ターゲットに導入されている Acquire のバージョン情報を得ています。

例) Version:11.20.0

「Acquire Details–Uncollected data files」で未転送ファイルの削除期間を指定している場合、ファイル削除動作の中で APMOut フォルダ内の「2Acquire.txt」が削除されます。この「2Acquire.txt」が削除されるのは製品仕様です。

Control Center は、収集データのファイル転送動作時に「2Acquire.txt」を検索します。ファイルが存在しなかった場合、Control Center は「file not found」のエラーコードが返ってくることを想定していました。しかし、上記 Windows Server 2019 の変更によって、「no more files」のエラーコードが返るようになっています。「no more files」のエラーコードが返ってきた場合、Control Center はファイル転送動作を中断するため、収集データファイルが転送されなくなります。

○対応

「no more files」のエラーコードに対応し、ファイル転送されるよう Control Center を修正しました。

第3章 pdbmagic2

3.1. 機能修正

3.1.1. sysstat12.0 以降のメモリ使用量算出式の変更による不具合

	分類	数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	-	-	-

○現象

sysstat12.0 以降の Linux 環境でメモリの稼働状況を示す値の算出が不正でした。

○発生条件

ES/1 バージョン : CS-MAGIC 初版～V05L20R2
条件 : ターゲットが sysstat12.0 以降の Linux 環境

○原因

sysstat12.0 以降の sar コマンドのメモリ使用量の算出式が変更されていました。

変更前: "total amount of memory" - "kbmemfree"

変更後: "total amount of memory" - "kbmemfree" - "kbbuffers" - "kbcached" - "kbslab"

CS-MAGICではsarコマンドから取得したメモリ使用量からIOバッファとページキャッシュの値を減算した値をメモリ使用量とし、メモリ搭載量やメモリ使用率の算出を行っていました。

そのため、sar コマンドの仕様変更により IO バッファとページキャッシュの値を重複して減算しており不正な値を算出していました。

○対応

pdbmagic2 で中間フラットファイルを抽出する際に、メモリ使用量とメモリ使用率の値からメモリ搭載量を算出し、メモリ搭載量からフリーメモリ量を除算した値をメモリ使用量として使用するようモジュール修正を行いました。

修正後のメモリ使用量の算出式:

$$\text{メモリ使用量} = \text{メモリ使用量} / (\text{メモリ使用率} / 100) - \text{フリーメモリ量}$$

○影響

メモリ使用量を基にしている下記の処理において、該当データ部分に不正な値が出力されます。

[フィールド]

メモリ: ATPAGE レコードの以下のフィールド

使用メモリ: KBMEMUSED

[標準クエリーマクロ]

es1_linux_totmemmb (搭載メモリサイズが正しくない)

es1_linux_usememmb (IO バッファとページキャッシュを 2 回引き算している結果になる)

[CS-MAGIC の標準クエリー]

標準マクロを使用しているクエリー

- [詳細]メモリ使用量とスワッピング～Linux -複合-
- [詳細]メモリ使用率の推移 -等高線-
- [月次]メモリ使用量とスワッピング～Linux -複合-

ATPAGE.KBMEMUSED フィールドを使用しているクエリー

- [詳細]メモリ使用量詳細～Linux -面-
- [月次]メモリ使用量詳細～Linux -面-

ATPAGE.KBMEMUSED フィールドを基にした集約フィールド使用しているクエリー

- [年次]メモリ使用量 -折れ線-
- [年次]メモリ使用量詳細～Linux -面-

[CS-ADVISOR の評価結果]

[FFM データ集約フィールド]

ATPAGE.KBMEMUSED フィールドを基にした以下の集約フィールド

月毎メモリの集約データ：ATYRPAGE レコードの以下のフィールド

- Linux プロセスによるメモリ使用率(%)(平均)：AVLXMEMUSE
- Linux プロセスによるメモリ使用率(%)(最大)：MXLXMEMUSE
- Linux プロセスによるメモリ使用量(KB)(平均)：AVLXMEMUSEKB
- Linux プロセスによるメモリ使用量(KB)(最大)：MXLXMEMUSEKB
- メモリ搭載量(MB)(平均)：AVPHYSMEM
- メモリ搭載量(MB)(最小)：MNPHYSMEM
- メモリ搭載量(MB)(最大)：MXPHYSMEM
- メモリ使用量(MB)(平均)：AVMEMUSE
- メモリ使用量(MB)(最小)：MNMEMUSE
- メモリ使用量(MB)(最大)：MXMEMUSE
- メモリ使用率(平均)：AVMEMUTIL
- メモリ使用率(最小)：MNMEMUTIL
- メモリ使用率(最大)：MXMEMUTIL

月毎メモリ(日付別)：ATYRPAGEMT レコードの以下のフィールド

- Linux プロセスによるメモリ使用率(%)(平均)：AVLXMEMUSE
- Linux プロセスによるメモリ使用率(%)(最大)：MXLXMEMUS
- Linux プロセスによるメモリ使用量(KB)(平均)：AVLXMEMUSEKB
- Linux プロセスによるメモリ使用量(KB)(最大)：MXLXMEMUSEKB

第4章 CS-ADVISOR

4.1. 機能修正

4.1.1. Oracle データの評価で Traceback エラーが発生する

分類		数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	-	-	Oracle

○現象

Oracle データの評価で下記の Traceback エラーが発生する場合がある。

```

モジュール s_oracle の main でエラーが発生しました。
Traceback(most recent call last):
File 'es1_impproc.pyc', line 230 in callfc
File "C:¥IIM¥CS¥stdproc¥s_oracle.py", line 501, in main
File "C:¥IIM¥CS¥stdproc¥s_oracle.py", line 561, in makeReport
.
.
    
```

○発生条件

ES/1 バージョン : V05L17R1 以降

条件 : 評価対象のフラットファイルに「Oracle データファイル」または「Oracle セッション」のデータが存在しない

○原因

「Oracle データファイル」または「Oracle セッション」のデータは、System Manager で収集しないように設定することも可能となっています。

しかし、Oracle データの評価処理が「Oracle データファイル」または「Oracle セッション」のデータが存在しない場合を想定していなかったため、上記エラーが発生します。

○対応

「Oracle データファイル」または「Oracle セッション」のデータが存在しない場合に、該当データに関連する評価処理をスキップするようにしました。

第5章 CS-Storage

5.1. 機能修正

5.1.1. 取得されたメトリックが欠損値となる

分類		数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	●	-	-

○現象

CS-Storage for NetApp を V05L20R2 にバージョンアップ後、統計情報を収集時に取得された性能情報の一部が欠損値となる。

○発生条件

ES/1 バージョン : V05L20R2

○原因

NetApp 統計情報の取得処理では、NetApp ストレージに対して継続的に統計情報取得処理を行い、2 回の取得結果を用いて統計値を算出します。

統計値の種類のうち、差分値のように2回の結果を算出処理するタイプのメトリックにおいて算出処理に誤りが生じていました。

○対応

算出処理のロジック修正を行いました。

第6章 CS-Utility

6.1. iim collect

6.1.1. 一部の OS で FTP ファイル転送に失敗する

分類		数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	-	-	-

○現象

z/VM や HP-UX などの一部の OS において、FTP によるファイル転送に失敗します。

z/VM の場合は以下のメッセージがトレースログに記録されます。

```
... error end. msg=[Unknown parser type: VM is the operating system of this server.]
```

HP-UX では、エラーは発生しませんがファイルが存在する場合でも LIST 結果が 0 件となります。

○発生条件

ES/1 バージョン : V05L18R1～V05L20R2

条件 : FTP(PROT=0)、かつ、転送元の OS が z/VM、または HP-UX のとき発生します。
ただし、ZVM=1 は対象外です。

○原因

FTP の LIST コマンドでファイル一覧を取得しておりました。

LIST コマンドは、一部の OS ではクライアントが想定しない結果を返します。

z/VM 環境では上記に加えて、ファイル一覧の取得前に作業ディレクトリの変更が必要でした。

○対応

ファイル一覧の取得を LIST から NLST に変更致します。

作業ディレクトリの変更有無を指定する CWD キーを追加します。

○注意

z/VM 環境、かつ、ミニディスクのパスワード設定が不要な環境では、CWD キーに「1」を指定してください。

○補足

本件は V05L19R1 機能修正案件でしたが、V05L19R1 で修正モジュールが提供されておりました。あらためて、V05L21R2 にて提供させていただきます。大変申し訳ありませんでした。

第7章 変更一覧

7.1. 本リリースより、出力される値（数値／文字列）、表示の変更一覧

7.1.1. 変更一覧

数値変更	表示変更	プロダクト	内容
●		Acquire	Solaris11.4 環境の課金情報を蓄積できない
		Control Center	APMOut missing エラーが発生する
		Control Center	受信データファイルが所定のフォルダに移動しない
		Control Center	システムデータファイル（ASNP）が転送されない場合がある
		pdbmagic2	sysstat12.0 以降のメモリ使用量算出式の変更による不具合
		CS-ADVISOR	Oracle データの評価で Traceback エラーが発生する
●		CS-Storage	取得されたメトリックが欠損値となる
		CS-Utility : iim collect	一部の OS で FTP ファイル転送に失敗する

数値変更 : 本バージョンの適用により、出力される値（数値/文字列）に変更がある場合に●が付きます。

表示変更 : 新規項目追加等により、レイアウトが変更した場合に●が付きます。